

たまねぎレポート【第374号】



平成30年12月27日

阪南青果株式会社

社内報

11月の天候の特徴は、東日本では気温がかなり高く、北日本と沖縄・奄美は高かった。北・東・西日本は高気圧に覆われやすかったため、月降水量が少なく、東日本の太平洋側を除き、月間日照時間が多かった。12月に入り、月前半は寒暖の差が激しく、比較的温暖な日が多かった。気象庁が発表した1～3月の月別予報は次の通り。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、平

年に比べ雪亦は雨の日が少ない。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇り亦は雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の太平洋側と西日本では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

主要(市場)の動き

野菜の概況

11月の建値市場の野菜の入荷は、230,663トン前年比100%で、多くの品目が温暖適雨に恵まれ生育は顕著に回復し、市場入荷は増加傾向となった。平均価格はいずれの市場も前年を下回った。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷量は前年比99%、平均単価はkg¥165で前年比89%。東京市場は前年比103%の入荷量で、平均単価はkg¥224前年比83%。名古屋市場は前年比100%の入荷量で、平均単価はkg¥214前年比90%。大阪本場は前年比106%の入荷量で、平均単価はkg¥224前年比87%。福岡市場は前年比92%の入荷量で、平均単価はkg¥168前年比86%となっている。

建値市場の11月の玉葱販売量は、26,506トン前年比83%で、札幌・大阪本場以外は前年をかなり下回った。平均単価は福岡以外は前年比3割高で堅調に推移した。市場別販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は前年比111%で、平均単価はkg¥86前年比128%。東京市場の販売量は前年比85%、平均単価はkg¥107前年比131%。名古屋市場の販売量は前年比83%、平均単価はkg¥95前年比128%。大阪本場の販売量は前年比100%、平均単価はkg¥108で前年比129%。福岡市場の販売量は前年比52%、平

均単価はkg ¥101前年比96%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の11月の主要野菜14品目の販売量は、101,391トンで前年と変わらず(前月比17%減)、平均単価はkg ¥126前年比17%安(前月比12%安)となっている。販売量が前年比増の品目は、ハウレンソウの72%増を始め、ピーマンが30%増、ナス24%増など7品目。前年比減の品目は、ジャガイモの21%減を始め、ニンジンが19%減、サトイモが15%減など6品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg ¥147で前年比31%高、ジャガイモがkg ¥97で17%高、タマネギがkg ¥81で8%高など4品目。前年比安の品目は、レタスがkg ¥119で前年比63%安、ハウレンソウがkg ¥406で50%安、ダイコンがkg ¥57で37%安など10品目となっている。

東京都中央卸売市場の11月の野菜の入荷は、126,889トン前年比103%(前月比94%)。平均単価はkg ¥224前年比83%(前月比85%)で、葉物野菜を中心に値下がりが続いた。旬別では上旬がkg ¥248(前年比94%)、中旬がkg ¥215(同81%)、下旬がkg ¥207(同74%)で続落歩調となった。主要15品目で入荷が前年を上回った品目は、ハウレンソウが前年比231%、レタスが148%、ナスが138%など9品目。ニンジンは前年比100%。前年を下回った品目は、パレিশヨが前年比83%、タマネギ・サトイモが85%など6品目。販売単価が前年比高であった品目は、タマネギがkg ¥107前年比131%、ニンジンがkg ¥177で129%、パレিশヨがkg ¥121で117%など4品目。前年比安の品目は、レタスがkg ¥144で前年比32%、ハウレンソウがkg ¥363で39%、ダイコンがkg ¥59で56%など11品目となっている。

東京都中央卸売市場の11月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	126,889	103.4	94.5	224	83.0	84.9
た ま ね ぎ	9,818	84.8	95.3	107	131.1	105.9
キ ャ ベ ツ	15,335	108.1	84.1	84	80.1	96.6
は く さ い	15,001	94.9	87.9	51	62.7	50.0
だ い こ ん	12,873	112.0	104.1	59	56.0	60.2
レ タ ス	7,505	146.7	95.3	144	31.8	70.2
に ん じ ん	7,182	100.2	92.0	177	129.1	83.1
ト マ ト	5,024	96.0	86.3	465	106.4	95.9
き ゆ う り	4,870	108.1	84.1	332	69.9	82.4
ば れ い し ょ	6,209	83.3	91.0	121	117.2	103.4
ね ぎ	5,269	98.4	99.0	314	88.1	76.6
か ぼ ち ゃ	2,088	64.4	68.5	284	191.0	117.8
れ ん こ ん	904	93.0	98.9	379	81.6	92.0
な が い も	696	96.4	90.6	388	104.2	98.0
に ん に く	274	101.2	108.7	879	84.1	94.1

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の11月の玉葱の入荷量は、9,818トン前年比85%（前月比95%）で減少傾向であった。主力の北海物は、ホクレンの出荷調整等で、入荷量は9,276トン前年比85%、占有率95%で前年と同じ。中国物は、461トンの入荷で前年比122%、占有率5%で前年比2ポイントアップ。兵庫物

は、49トンの入荷で前年比84%、占有率1%で前年と同じ。月平均価格はkg ¥107前年比131%(前月比106%)で、引き続き高値で推移した。産地別の平均単価は北海物がkg ¥108前年比132%。中国物がkg ¥83前年比111%。兵庫物がkg ¥171前年比103%となっている。

12月に入り、入荷は減少傾向で、仲卸の間では先高を見越してストックを始める店舗もあり、市場に先高ムードが広がった。北海物の販売環境は産地主導の態勢が強まり、品薄高が表面化する動きとなった。入荷は日々減少傾向で相場は日々上昇傾向となり、中旬にはホクレンの指示価格のL大 ¥2,500、L ¥2,400の水準に値上がりした。昨今では、買参人の年末年始の注文に応じ切れず、更に品薄高傾向が強まり ¥100高となっている。亦、越年在庫が少なく、年始売りの量的確保に悩まされている。12月1日～20日の販売量は6,465トン前年比85%。北海物は6,034トン前年比84%、中国物が321トン前年比114%。平均単価はkg ¥118前年比128%。北海物はkg ¥118前年比129%、中国物はkg ¥82前年比105%となっている。佐賀のセット(冬採り)は前年比150%の入荷で、平均価格はkg ¥288前年比94%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の11月の玉葱の販売量は、6,051トン前年比83%(前月比88%)で、前年比、前月比ともに大幅減であった。主力は北海物で販売量は、6,005トン前年比83%、占有率は99%で前年と同じ。中国物の販売量は29トン前年比397%、占有率は0.5%。兵庫物の販売量は18トン前年比77%。平均単価はkg ¥95前年比128%(前月比106%)。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥95前年比128%。中国物がkg ¥75前年比94%。兵庫物はkg ¥190前年比103%となっている。

12月に入り、北海物のお荷は減少傾向が続き、品不足状態が表面化し、不

足を転送品で補充に努めたが需要に応じ切れなかった。相場は品薄を背景にじり高で推移し、月初めの¥2,300が、月半ばにはホクレンの指示価格¥2,500に、昨今では¥2,600に値上がりしている。25日以後の着荷は年始用にストックする予定。兵庫の冷蔵物は、注文に応じた必要量の販売に終始しているが、高値のため少量にとどまっている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の11月の玉葱の販売量は、3,499トン前年比100%(前月比97%)、荷受けサイドでは北海物の集荷に励み、ほぼ必要量を確保した。北海物主力の販売で、北海物は2,984トン(内転送物が460トン)で前年比102%、占有率は85%前年比2ポイントアップ。兵庫の冷蔵物は、509トンの販売で前年比86%、占有率は15%前年比2ポイントダウン。9~10月の出荷が前進化したこと、例年になく劣化が早く商品化率の低下などで、入荷は減少傾向となった。平均単価はKg¥108前年比129%。産地別の平均単価は、北海物がKg¥101前年比130%。兵庫物はKg¥151前年比132%となっている。

12月に入り、産地の先高ムードを受けて、市場関係者にも先高感が強まり、仲卸の手当て買いが始まり、荷動きは回復傾向となった。年末需要を反映してL大の引きが強まりL大の高値は¥2,600に上昇した。兵庫の冷蔵物は品質格差が広がり、価格差が拡大した。月半ばにはこだわり筋にも品質不信で敬遠される動きが見え始めた。月後半の北海物は直送品の入荷の減少が目立ち、産地の強気に曳かされて、上値が多く下値が少なくなった。昨今は年末売りの手当ても一段落し、市場は閑散としている。荷受けサイドでは売り残り品を年始売りに保管している。12月1日~20日までの販売量は、2,597トン前年比106%。産地別では北海物が2,226トン前年比108%、兵庫物が348トン前年

比91%。平均単価はkg¥119前年比131%。産地別では北海物がkg¥113で前年比133%、兵庫物はkg¥158前年比114%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の11月の玉葱の販売量は、2,414トン前年比52%（前月比86%）で、前年比、前月比ともに減となっている。主力は北海物で、販売量は2,058トン前年比57%、占有率は85%で前年比7ポイントアップ。中国物は302トン前年比169%、占有率は13%で前年比9ポイントアップ。香川物は23トン前年比288%、占有率は2%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥101前年比96%（前月比102%）で、横這いで推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥103前年比104%。中国物はkg¥74前年比99%。香川物はkg¥174前年比108%となっている。

12月に入り、北海物の入荷は減少傾向が続き、販売量の確保に苦労した。香川の冷蔵物も出荷は後ズレ傾向で、年内の入荷は少量にとどまり、こだわり筋に割高に販売をしている。佐賀のセット栽培は、勉売するも試験販売の域を出ていない。年内販売は買参人に迷惑を掛けない程度は確保したが、年明けの数量確保が心配。1日～20日の販売量は1,394トン前年比59%、平均単価は、kg¥116前年比107%であった。

12月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷119トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,600～2,500、L大 ¥2,650～2,500、L ¥2,600～2,500、
M ¥1,800～1,700。

北 海 20kgNT2L ¥2,200～2,150、L大 ¥2,500～2,400、L ¥2,400～
M ¥1,500～

【太田市場】 入荷197トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,500~2,400、L大 ¥2,600~2,500、L ¥2,400~2,300、
M ¥1,900~1,800。

佐 賀 5kgDB2L ¥1,300~1,200、L ¥1,500~1,400、M ¥1,300~1,200。

【名古屋北部】 入荷292トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,300~2,200、L大 ¥2,600~2,500、L ¥2,400~2,300、
M ¥1,900~1,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300~1,200、L ¥1,700~1,600、M ¥1,400~1,300。

【大阪本場】 入荷188トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,400~2,300、L大 ¥2,700~2,600、L ¥2,500~2,400、
M ¥1,800~1,700。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,200~1,000、L ¥1,600~1,200、M ¥1,500~1,000。

【福岡市場】 入荷162トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,600~2,500、L大 ¥2,800~2,700、L ¥2,600~2,500
M ¥2,200~2,000。

香 川 10kgDB2L ¥1,800~1,600、L ¥1,800~1,700、M ¥1,600~1,400。

佐 賀 5kgDB2L ¥1,200~1,100、L ¥1,300~1,200、M ¥1,100~1,000。

供給(産地)の動き

主力の北海道産地では、関係者は年内市況に安堵するも、減収と品質不良に悩んでいる生産者が多い。ホクレンの11月時点の生産・出荷予想では、生産量は前年比92%、出荷量は前年比89%と報告されているが、出荷量は更に低下する可能性が高い。

冷蔵物の主力産地である淡路島では、11月後半からは商品化率の低下で、出

荷は伸び悩み年末在庫は前年比97%に減少している。香川、愛媛などの出荷は後ズレ傾向で年末在庫は前年を上回ると見ている。

静岡、長崎の極早生の生育は順調で、此の先厳しい寒波がなければ、出荷は前進し、出荷量も前年を上回ると予想している。

11月の輸入は予想ほどは増加しなかったが、12月以降は加工筋の原料不足が表面化し、前年を上回る入荷が続くとみている。

北海道産地

全道的に強気ムードが浸透し、市況の先高期待感が強まっている。越年在庫の多いのは北見管内で、特に商系のお荷が後ズレ傾向である。全道的に品質に難があり、病害球や格外品の発生率が高く、商品化率は予想以上に低下している。生育途上の6月の多雨と寡照が影響しているとの声が高い。特に、空知・石狩地区では不作に加え正品の歩留まり率が低く、高値が相殺され収益低下に悩んでいる。上川地区も生産者別のバラツキが大きくクレームが発生している。オーホック地区も例年に比べ見劣りがする。産地関係者の多くは、年明けの品質保持に努め堅調市況が続くことを期待している。

府県産地

冷蔵物の主力産地である淡路島では、越年在庫は前年比97%で意外に少なくなった。出荷の前進化もあるが、今年のお葱は劣化が早く歩留まりが悪い。年明けは更なる劣化が心配される。収穫時の仕上がりのよし悪しもあるが、昔に比べ冷蔵物の品質管理が低下している。冷蔵機器は進歩しているものの、お葱に造詣の深い経験者が少なくなり、お葱の特性や生理に関係なく、形式的な管理が主流になっている。目利きの出来る品質管理者が少なくなっている。次シーズンの定植は順調で作業は前進化している。極早生は既に肥大期を迎えている圃場も見受けられる。温暖な気候が続けば過度の徒長が心配されるし、強い寒波に見舞われれば、生育

の停滞だけでなく、葉茎が損傷する懸念があり、平常年の気候が望まれている。

府県産の早生の先陣を切って出荷が始まる静岡では、台風21号の影響で植え直しを余儀なくされた生産者もあるが、総体的には定植が順調で、活着が良く、球肥大も順調で、年明けの初市から販売が始まる。作付面積は164ha前年比103%、出荷量は6,370トン前年比110%を計画している。出荷は2月がピークとなり3月末までに終了する有利販売を目指している。

佐賀では、苗立ちが良く、定植作業は12月前半までは順調で、活着も良く生育は前進化していたが、後半に入り天候不順に祟られ、定植作業は中断し、現在の定植進捗率は前年並みに後退している。早期に定植した圃場では、葉茎が徒長し軟弱に育っているため、此の先寒波の襲来が心配されている。現在も苗余り現象が続いているが、今後の定植は、苗の老化が心配される。極早生のマルチ栽培のなかには、2月後半には出荷が出来ると言う生産者も居る。定植が中断したことで苗の老化や圃場耕起などの問題で作付面積に影響が起きそうだ。

外国産地

11月の輸入は速報値で、25,536トン前年比115%(前月比111%)で、予想を下回ったものの増加傾向にある。国別では中国が23,723トン前年比111%。アメリカが1,779トン前年比223%。オランダが10トン前年比86%となっている。

中国、主力産地は前月と同様甘肅省である。欧州向けのオファーなどの影響で値上がり傾向に転じている。現在の価格は、剥き玉20kg・C&F・\$7.20の水準にある。

アメリカ、日本向け主力産地では、貯蔵用の晩生種は、球肥大が良好で豊作となった。12月1日現在の在庫は、前年比102%、アイダオ・オレゴンが112%、ワシントンが97%と報告されている。大粒でMサイズが少なく、Mがタイト

で割高となっている。現在、日本向け価格は、50㉿・C&F・Jサイズ \$ 9.95～9.45、Mサイズ \$ 10.45 となっている。日本向けは船のスペースがタイトで、注文も少ない模様。オランダが不作で輸出の軸足は欧州に向いている。月後半はクリスマス休暇があり出荷は少ないと言う。

ニュージーランド、寒暖の差が大きい気候が続いているが、適度な降雨と日照もあり、生育は順調で球肥大は例年より進んでいる。懸念材料は一部でベト病の発生が見受けられることである。オランダの不作と日本のマーケットの高値情報を受け、生産者の期待が膨らんでいる。(了)